

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】令和5年11月14日(2023.11.14)

【公開番号】特開2022-70011(P2022-70011A)

【公開日】令和4年5月12日(2022.5.12)

【年通号数】公開公報(特許)2022-083

【出願番号】特願2020-179011(P2020-179011)

【国際特許分類】

G 01 L 5/00(2006.01)

10

B 23 B 31/00(2006.01)

【F I】

G 01 L 5/00 103Z

B 23 B 31/00 D

【手続補正書】

【提出日】令和5年11月6日(2023.11.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

チャックに把持されて該チャックの保持力を測定する保持力センサであって、

ベース部と、

前記ベース部の一方側に配置された複数の起歪体であって、各々が前記ベース部により片持ち支持されて自由端を有する起歪体と、

前記複数の起歪体の少なくとも一つに取り付けられたひずみゲージとを備え、

前記複数の起歪体の各々は、前記ひずみゲージよりも前記自由端側に、前記保持力センサを把持するために前記チャックが当接される第1被当接部及び第2被当接部を有し、

前記保持力センサは前記チャックに把持された状態において前記チャックの中心軸に一致するセンサ中心軸を有し、

第1被当接部は前記センサ中心軸を中心とする第1仮想円上に位置し、

第2被当接部は第1被当接部よりも前記自由端側において、前記センサ中心軸を中心とし且つ第1仮想円よりも直径が小さい第2仮想円上に位置し、

前記保持力の測定のために、前記複数の起歪体が前記チャックにより一体として把持される保持力センサであり、

前記複数の起歪体の各々が、前記チャックが前記保持力センサを把持するときに前記チャックの先端に当接する位置合わせ面を有し、該位置合わせ面が第1被当接部と第2被当接部との間ににおいて前記センサ中心軸に直交する面内に延びる第1位置合わせ面と、第1被当接部よりも前記ひずみゲージ側において前記センサ中心軸に直交する面内に延びる第2位置合わせ面とを含む保持力センサ。

40